

みんなのねがい

特集 広島発 平和を語る

【特別インタビュー】

平和って、ささやかだけどかけがえのないもの

●クミコ(歌手)

【インタビュー】

反核・平和運動ひとすじに ~いま、私が伝えたいこと

●佐藤光雄(日本平和委員会代表理事)

声明

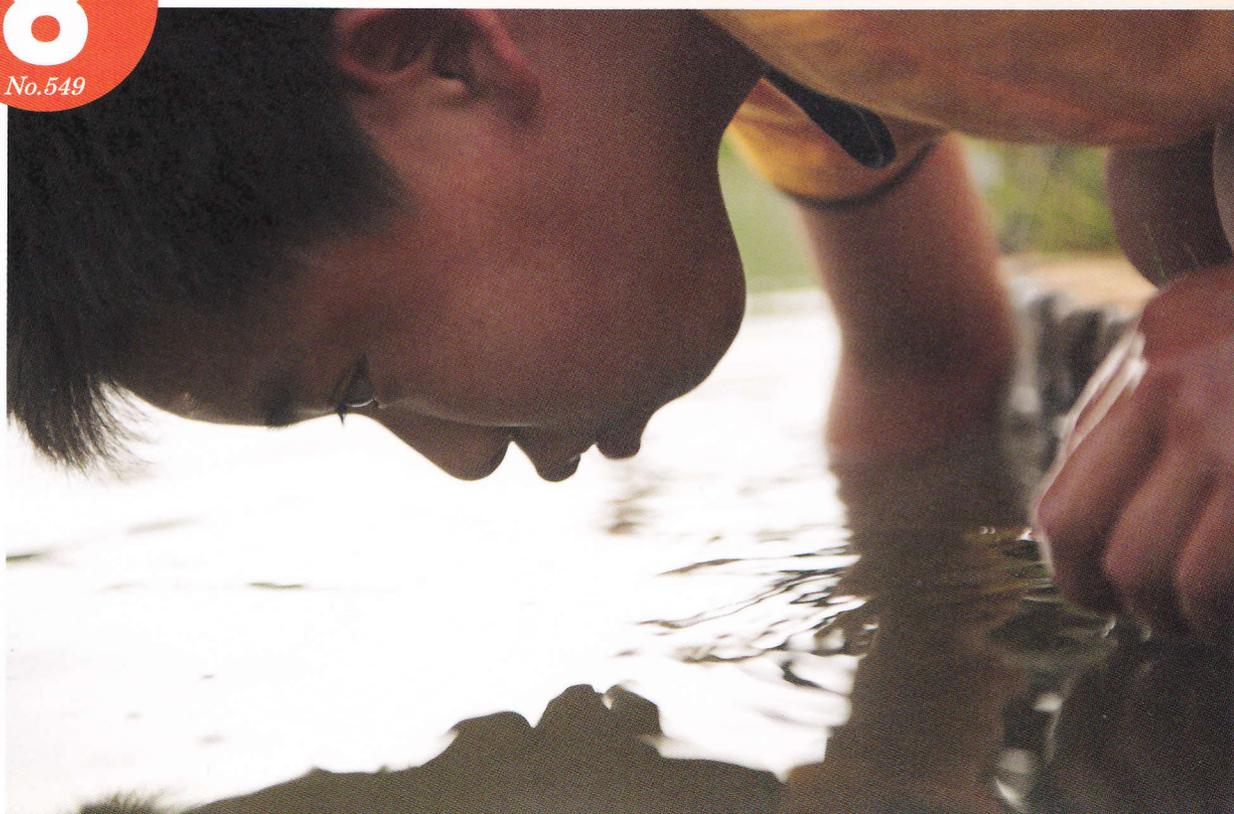
「基本合意」を破り、「骨格提言」を棚上げにした

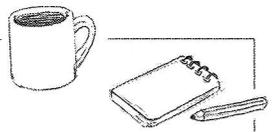
障害者総合支援法の可決・成立に強く抗議します

2012

8

No.549





〔件名〕 きっかけは、何でしたか？

こんにちは。今年の3月に座間味島を訪れ、井上さんと高松さんの世界がつまった白いギャラリーでお茶したひととき、今でも覚えています。おもてなしをありがとうございました。編集室にそのとき頂いた海のカレンダーがかかっていて、編集で疲れたとき海の生きものたちが目を癒やしてくれます。

私がドキュメンタリーを撮るようになったきっかけは、小学生のとき父から借りた洋画です。当時は字幕のついた番組が少なかったので父がレンタルビデオ店で借りてきた洋画を見て育ちました。大人になったら映画を作りたいと思うようになり、20歳でアメリカに留学し、1年間映画制作を学びました。帰国後、バイト代でビデオカメラを買って母校の豊橋ろう学校を撮りました。ろう学校は全国に100校ほどしかなく、日常生活に触れる機会がほとんどありません。生徒は「暗い」「かわいそう」と偏ったイメージを持たれがちです。しかし、実際は、聞こえる子どもたちと同じようにケンカもすれば、恋愛もする。授業中におしゃべりして先生に怒られたりもする。ありのままのろう学校を見てもらいたいと思い、尾崎くん（聴者）にレポーターを依頼し、一緒に取材に行きました。

取材後、尾崎くんが言いました。「かわいそうなのは偏見をもって自分の方だった」。

地元の手話サークルや小中学校で上映し、「ろう者へのイメージが変わった」「普通学校の生徒と変わらない」などさまざまな声が私の元に寄せられました。そのとき気づきました。偏見は「無知」から生じるのだと。それならば、映像の力でろう者の活動、日常生活、考えていることを伝えていこう。それを生涯の仕事にしたいと思うようになりました。

井上さんが最初に撮った写真は何でしたか。

いまむらあやこ



メールで会えたら

映像作家・今村彩子

海洋写真家・井上慎也



〔件名〕 Re：きっかけは、何でしたか？

こんにちは。3月はギャラリーに来ていただき、ありがとうございました。今村さんの講演会に行かれた方たちが、偶然、同じタイミングでギャラリーに来られて、盛り上がりましたね。

僕が、記念写真以外の写真を初めて撮ったのは、やはり水中写真でした。小さいときから海が好きで、高校1年生のとき、両親に10メートル防水のコンパクトカメラを買ってもらって、友だちと遊びに行った淡路島で、素潜りで魚やウミウシを撮りました。今のようないオートフォーカスではなくピントが固定されたカメラだったので、接写装置を付けて30センチのところに魚を入れないとピントが合わなくてなかなか思うようには撮れませんでした。そのころ撮った写真は今も大事に持っています。

僕は、小学校5年生のころから徐々に聴力を失った中途失聴者なのですが、聴力を失っていなければ今の自分はなかっただろうと思っています。まわりの人たちの声が聞こえにくくなったかわりに、自分の心の声に耳を傾けるようになりました。情報やまわりに流されず、自分が本当にしたいと思うことに気付けるようになったんです。高校生のころまでは、漠然と海にかかわる仕事がしたいと思っていました。そんなとき沖縄の大学に海洋学科というのがあると知って、進学したんです。大学ではダイビングクラブに入りました。「自分の身は自分で守る」ということを身につけるために、クラブの練習は厳しかったのですが、そうやって入る海の中って、とても自由なんです。きっと人生も同じで、自分のしたいように、どんどん進んでいけるんだと、視界が広がりました。

僕は大阪から沖縄に進学するのでも勇気がいりましたが、今村さんはアメリカに留学したんですね。どんな学生生活でしたか。

いのうえしんや

